



岡山県立岡山東商業高等学校の非認知能力を育成する取組を取材しました。

【キーワード】

- ①スケジュール手帳 ②自己管理能力 ③対人関係力
- ④就労力 ⑤認められる経験 ⑥問題解決



【取組のポイント】

1 【商業高校として社会で活躍する人材を育成するために】

- ・高校や大学を卒業した社会人として活躍している人に共通した力として、粘り強さや協調性、コミュニケーション力などの非認知能力があり、東商では学校のミッションである「地域産業やコミュニティを担う人間性豊かな人材の育成 × Society5.0に対応できる資質・能力の育成」の土台として、非認知能力育成に力を入れている。



東商デパートでの生徒の活躍

2 【非認知能力育成の視点】

- ・**スケジュール手帳**の活用により**自己管理能力**の育成を図っている。学校行事や探究学習などの教育活動の中で課題を乗り越えるための「自分を高める力」や「他者とつながる力」を高める仕掛けがなされ、振り返りを通して「自分と向き合う力」を育成している。また、企業と関わる場を組み込むことで「地域とつながる力」も高めている。

3 【事例】

○スケジュール手帳の活用と振り返りによるメタ認知

- ・平成26年から導入している**スケジュール手帳**は、毎年内容を更新しながら活用している。当初は社会人として必要な**自己管理能力**を育成するために、提出物や日々のスケジュールを書き留めるために導入したが、活用していく中で、振り返りを通じたメタ認知の効果に気づき、さらなる活用に取り組むこととなった。日々の振り返りに加え、週末には一週間の活動やその取組状況を振り返ることでメタ認知を促している。



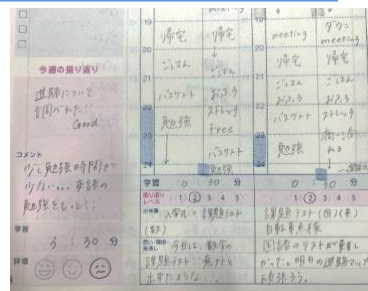
手帳でのスケジュール管理

スケジュール手帳のスケジュール管理以外の様々な機能やページ構成

- ・学校生活に関することなどの生徒手帳としての役割
- ・生活・学習・進路それぞれについて、どのように成長してほしいのかの道筋を段階に分けて示した「東商ロードマップ」
- ・「考査の記録」、各種検定の取得の記録、部活動での成績の記録などを書き綴ることができる「私の達成記録」
- ・目標、やっていきたいこと、そのためにやること等
- ・Todoリスト、学習の記録、日々の出来事の振り返り 等

○東商デパートでのコミュニケーション能力の育成と社会貢献

- ・平成5年から開始した「東商デパート」は、地元企業と協力して「仕入－販売－決算」といった一連の企業活動を生徒が担う探究学習である。
- ・店舗の準備に向けて協力企業と仕入れ商品の交渉等を行う中で、**対人関係能力**と多様性受容力、計画・実行力といった**就労力**を身に付けている。
- ・東商デパートでは、クラスの全員が店舗の運営に関わるのではなく、会場係や駐車場係といったそれぞれの部署における自分の役割を果たすことで、大きな組織（デパート）が成立するという経験ができる。活動後の振り返りを通して、組織の中での自身の務めが他者から**認められる経験**をすることができる。



生徒の振り返りの様子

○探究型の授業を通じた非認知能力の育成

- ・3年生の選択科目「商品開発」は、地域の人や企業と関わりながら、生徒が商品の企画・開発を行う学習である。
- ・企業とのやりとりでは、プロの視点から生徒の企画に意見を返してもらっている。生徒は、企画を練り直したり、再提案したりすることで、粘り強く自らの力で**問題解決**を行っている。
- ・「商品開発」等の取組の中で、自分たちが動くことで地域の人から反応をもらうなど、大人から**認められる経験**をしている。また、自分たちは地域に何ができるのかなどを考えることで学びを深めている。



取材を終えて

生徒一人一人が自ら目標を立て、活動を通して様々な非認知能力を伸ばしていく、高校生という発達段階ならではの学び方が伺えました。他方で、教員や保護者には非認知能力育成の視点を持つことが必要との認識のもと、保護者向けの研修も行っているということでした。スケジュール手帳についてはICT端末の活用とのすみ分けについて研究を進められているとのことでした。